

報告



懇談会の様子

平成28年度地域医療住民活動懇談会

常任理事・地域医療部長 伊藤 利道

平成29年2月10日、当会8階会議室で、平成28年度地域医療住民活動懇談会を開催した。当会では平成21年から様々な住民活動を行っている団体に集まっていたが、情報交換を行なっている。平成28年度は24団体にお声掛けし、10団体16名に参加して頂いた。

はじめに北海道保健福祉部・大竹地域医療構想担当局長より「地域医療構想」と「地域包括ケアシステム」について簡単な説明があった。「人口減少と高齢化の進行」「高齢化による医療のあり方の変化」「家族のあり方の変容、雇用環境の変化」「厳しい財政状況」等に対応すべく、住民が住み慣れた地域で暮らし続けることが可能となるように進めるものであるとし、各地域の取り組みの好事例を交えながら説明が行われた。

地域医療住民活動懇談会団体一覧（24団体）

市町村	団体名
松前町	松前病院「傾聴ボランティア」、「キルトサークル」、「絵手紙教室」
江差町	南檜山の医療と福祉を考える草の根の会
千歳市	スマイルハートリー
千歳市	ちとせの介護医療連携の会
京極町	ひまわりクリニックサポーターの会
岩内町	地域医療を考える会
赤平市	赤平市社会福祉協議会ボランティアセンター
滝川市	滝川市立病院「菜の花」応援団
砂川市	砂川市立病院ボランティア
深川市	ボランティア・わかくさ
白老町	白老町立病院を守る友の会
浦河町	浦河の医療機関を守る会
士別市	士別市立病院応援隊
留萌市	留萌がんばるかい
羽幌町	地域医療を守る会「折り鶴」
北見市	北見赤十字病院の明日を考え支援する会
芽室町	公立芽室病院をみんなで支える会
名寄市	名寄市立総合病院サポートクラブ
別海町	別海町地域医療サポート隊「医良同友」
羅臼町	羅臼の医療を支える会（RISの会）
本別町	本別町病院ボランティア運営会議
根室市	ねむろ医心伝信ネットワーク会議
根室市	根室の地域医療を守る連絡会
稚内市	地域医療を考える稚内市民会議

その後、「ちとせの介護医療連携の会」、「ひまわりクリニックサポーターの会」、「留萌がんばるかい」、「名寄市立総合病院サポートクラブ」、「地域医療を考える稚内市民会議」の5団体より活動報告が行われた。

次に、司会を小職が担当しフリーディスカッションを行った。主な意見を紹介する。

○宗像会長（白老町立病院を守る友の会）：白老町立国保病院が公設民営化され、苫小牧市医師会と苫小牧市が運営する一般財団法人苫小牧保健センターに経営を委託するということが、住民のデメリットが心配である。また、民間に委託することにより、病院経営は採算性を優先するようになるのではないかと不安である。

○藤原副会長：病院の管理・運営は苫小牧市保健センターが行い、運営上の経費については白老町が負担することとなるため、採算性のみを優先することにはならないのではないかと。

○鈴木京極町議会議員（ひまわりクリニックサポーターの会）：京極町の国保病院が診療所に規模を縮小したのは赤字の問題が発端であった。平成24年4月より有床診療所「ひまわりクリニックきょうごく（京極町国民健康保険診療所）」として4名の総合診療医により、365日、24時間のオンコール体制で運営している。地方の公立病院はどれも赤字経営であり、黒字になるはずのない体制であることを町民、行政、議会もきちんと理解する必要があるのではないかと。町で全ての診療科を抱えることは現実的に無理があるため、二次医療圏、三次医療圏とどのように結びつくかが重要な要素になるのではないかと考えている。また、看護師や介護士の不足が大きな問題となっており、北海道に協力をお願いすることはできないかと思っている。

○長瀬会長：町立・市立などの公立病院は、現在の診療報酬の体系では成り立たないのが現状である。今後は白老町では日常の診療を行い、重症患者は苫小牧市にお願いする体制が理想ではないかと思う。

○佐藤副会長（ちとせの介護医療連携の会）：介護職の募集については、イメージアップを図るため、若い人材を起用し宣伝している。また、広く周知することが重要と考え、JRの中吊り広告にも掲載している。

○山川事務局員（地域医療を考える稚内市民会議）：

稚内市では、将来地域医療を担う青少年を育成することを目的に、市内の各小中学校において医学生や研修医、医師などが講師を務め、子供たちが学習する機会を設けている。これにより、医師についても遠い存在であったが、近い存在として感じてもらえるようになった。

○司会：行政との連携についてはいかがか。

○佐藤副会長（ちとせの介護医療連携の会）：千歳市では、市の保健福祉部長が協力的であるため、市職員とも連携がとれており、環境が整っていると思う。

○鈴木京極町議会議員（ひまわりクリニックサポーターの会）：京極町の保健師の活動は、国や北海道から依頼を受けた事業を行うのみであり、もっと地域に溶け込んでほしいと思っている。地域包括ケアシステムの構築についても社会福祉協議会へ任せきりの状態である。

○長瀬会長：保健師も多忙であり、そこまで手が回らない現状がある。最近民間のサポートセンターが普及していることから、保健師の業務負担軽減のため、検診の個別勧奨をサポートセンターに委託するなど、色々な仕組みを考えることが必要である。

○鈴木京極町議会議員（ひまわりクリニックサポーターの会）：京極町では健康推進課の保健師がミニドック等の検診を行っているが、その検診結果が医療機関に届いてない現状があり、問題となっている。

○田畑代表（名寄市立総合病院サポートクラブ）：名寄市では予防医療については、各町内会等より保健師をサポートする保健推進委員を選出し、検診率の向上等に寄与している。

○千葉会長（地域医療を考える会）：岩内町では岩内協会病院が中心となり、周囲の開業医の協力のもと24時間365日の救急体制をとっているため、地域医療は順調に機能している。問題は行政との関係である。役所は部所によっても病院に対する意識の温度差がある。

○大竹局長：今回お集まりの方々の取り組みは、地域医療を守るということに必ずつながると思っている。是非今後も活動の場を広げていただきたい。

◇

最後に藤原副会長より、「地域医療構想と地域包括ケアシステムはまち作りである。そのため、町がしっかりと取り組んでいかなければうまくいかない。今後ともまち作りのため、地域医療住民活動団体の協力を是非お願いしたいと思う」との総括があった。

◇

以上のように、活発な意見交換が行われた。ご多忙のなか、ご出席いただいた各住民団体の皆様に厚く御礼申し上げます。

北海道医報へのご投稿等について

◇広報委員会◇

北海道医師会では、会員の皆さまから「学術投稿」「会員のひろば」等各種原稿を下記要領にて募集しております。是非ともご投稿いただきたくお願い申し上げます。

なお、写真作品のご投稿につきましては、ホームページに「フォトギャラリー」を設けておりますので、ご応募ください。

投稿要領

1. 原稿の締切

毎月10日までにいただいたものは原則として翌月号に掲載となります。ただし、「会員のひろば」については、受付状況により掲載号を決定します。

できるだけメール等の電子メディアでお寄せください。

2. 原稿の体裁と字数制限

- (1) 原則として横書きといたします。
- (2) 引用文以外は、すべて当用漢字、現代かなづかいを使用してください。
- (3) 誤字、脱字、明らかな間違い等は広報委員会において訂正いたします。
- (4) 1回の掲載紙面は、原則として2頁、「**会員のひろば**」は1頁を限度とします。医報1頁は約2,200文字です。ただし、タイトル、写真、図表等を含んでおりませんのでご考慮ください。
- (5) 長文原稿および連載物は、広報委員会にて採否決定の上で分割掲載、掲載号等を決めさせていただきます。

3. 原稿の訂正、返却

次の場合は、広報委員会の決定に基づき、執筆者に対し訂正を求めるか、または返却いたします。

- (1) 特定の個人・団体を誹謗、中傷する内容
 - (2) 匿名の投稿
 - (3) 本誌以外に既掲載のもの、あるいは投稿中のもの（二重投稿）ただし、特に必要と認められる場合はこの限りではない
 - (4) その他掲載に支障がある内容
- #### 4. ホームページへの掲載

特にお申し出のないかぎりホームページに掲載されますので、予めご了承ください。

連絡先：北海道医師会事業第一課
TEL 011-231-7661 FAX 011-241-3090
E-mail：ihou@m.doui.jp